【人権課題】障害のある人

共生社会の実現に向けて

岡山県立瀬戸南高等学校

1 教科等

特別活動

〔ホームルーム活動〕

2(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

2 題材

障害のある人・共生社会

3 生徒の実態と題材について

(1)生徒の実態

多様な生徒が在籍しており、他者とのコミュニケーションや人間関係の構築を苦手とする者も多い。他者との適切な距離のとり方だけでなく、自分自身の存在意義や、置かれている状況を把握できず、悩んだり苦しんだりする場面や、他者に対する思い込み・偏見ととれるような発言をする場面や、社会の一員として、どのように自らを律しつつ、参画していけばよいか戸惑っている様子が見受けられることがある。

(2)題材選定の理由

令和5年度に、改めて本校の人権教育に関わる指導内容等について調査した結果、教科・科目の学習や実習等において、生徒一人一人に合わせた多様な指導や、コミュニケーション技能向上のための取組により、生徒の「知識的側面」と「技能的側面」を育成する学習機会が複数設定されていることを確認した。

一方で、「価値的・態度的側面」を育成する学習活動が不十分であることも明らかとなったため、共生社会の実現を目指した取組として実施していたありがとうファームのアート展を、「価値的・態度的側面」を育成する場面として位置付けることとした。

令和5年度のアート展では、対話型鑑賞の手法を取り入れた。対話型鑑賞とは、1980 年代半ばにアメリカのニューヨーク近代美術館(MoMA)で開発されたアートの鑑賞法の一つで、アートなどを楽しむ際に、周囲と対話を行うことで新たな発見や学びが生まれるという考え方であり、ありがとうファームのアートディレクター深谷千草氏に提案された鑑賞方法であった。対話型鑑賞では、ファシリテーターの下、「一人一人が自由な発想で発言してよい」「他者の発言を否定しない」というルールを守って、対話を行った。アートを題材としたこうした鑑賞方法ならば、普段自分の考えに自信がもてず、他者に伝えることが苦手な生徒も、伝えようという意志をもって発言しやすく、また、他者の意見を尊重すべき一つの意見として丁寧に傾聴する態度の育成にもつながると考えた。

加えて、互いの発言を否定せず対話する活動は、「誰もが安心して発言できる」という「人権を尊重した環境づくり」に資する。心理的安全性が確保された環境下で、一人一人が安心して対話することができれば、互いの理解を深めることができ、人間関係の構築につなげることもできるのではないか。このような考えの下、「トーク&アート展」を校内に心理的安全性を普及、向上させるための契機としても捉えることとした。

以上のことから、令和6年度は、対話型鑑賞を取り入れた「トーク&アート展」を通して、自他の人権が尊重された環境の下、生徒一人一人が対等な立場で対話をすることが、人権学習における「価値的・態度的側面」の育成につながると考え、題材として選定した。

4 単元の目標

生徒が、社会の一員として、それぞれ違いのある人達を尊重し、受け入れることができる多様性や包摂性を身につけることを目指す。多様性を認識するだけでなく、いかなる属性も排除されない包摂性を養うことで、社会の一員として違いのある人達（社会・学校など）を尊重し、受け入れる契機とする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「障害の社会モデル」について理解している。	他者の意見を尊重すべき一つの意見として傾聴し、自他を尊重した適切な言葉で自分の意見を伝えたり、自分の中に、他者への思い込みや偏見がある可能性に気付いた発言をしたりしている。	自他の価値を尊重し、自分の言動に責任を負う意志や態度で対話型鑑賞に参加しようとしている。

6 指導上の立場

○単元観

生徒一人一人が、対等な立場で対話するための題材としてアート作品を捉える。アート作品の鑑賞を通して、生徒やありがとうファームアーティストなど多様な他者との対話を促す。

○生徒観

生徒達は落ち着いて学校生活を過ごすことができているが、コミュニケーションをとることに苦手意識をもつ生徒も多く、人間関係などに悩みをもったり、トラブルになったりする場面も多い。

○指導観

対話型鑑賞では、人や作品を否定する言動をしないなどのルールを確認させ、人権に配慮した空間で、安心して対話を行えるような雰囲気をつくる。グループワークでは、ワークシートを用いて対話を促すために、5WIHの質問を設定することにより、自分や他者の意見を細分化して捉えさせ、多様な意見が「混ざる」経験をさせるようにする。

7 指導と評価の計画

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	評価規準及び評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
事前学習(終礼時)	ありがとうファームについて知る。	ありがとうファームについて知っている。(アンケート)		
	「障害の社会モデル」について知る。	「障害の社会モデル」を理解している。(アンケート)		
トーク&アート展(1)	アーティストがどのような人物かを知る。			
	対話型鑑賞のルールを知る。			
	グループに分かれてアート作品の対話型鑑賞を行う。		他者の意見を尊重すべき一つの意見として傾聴し、自他を尊重した適切な言葉で自分の意見を伝えたり、自分の中に、他者への思い込みや偏見がある可能性に気付いた発言をしたりしている。(発言の内容)	自他の価値を尊重し、自分の言動に責任を負う意志や態度で対話型鑑賞に参加しようとしている。(行動の様子)
振り返り(終礼時)	アート展での学びを確認する。		自分の中に、他者への思い込みや偏見がある可能性を見出した記述をしている。(アンケート)	

8 本時(本実践)と人権教育

○対話型鑑賞を通して、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる。

【価値的・態度的側面】

○作者について知った上で、アーティストや他者と対話的に作品を鑑賞し、事後のアンケートを通して、自分の中に、障害や他者への思い込み、偏見がある可能性に気付かせる。

【価値的・態度的側面】

○自他を尊重した適切な言葉で自分の意見を伝えるコミュニケーション技能や、他者の意見を尊重すべき一つの意見として傾聴する姿勢を育てる。

【技能的側面】

9 本時案

(1)本時の目標

・他者の意見を尊重すべき一つの意見として傾聴し、自他を尊重した適切な言葉で自分の意見を伝えたり、自分の中に、他者への思い込みや偏見がある可能性に気付いた発言をしたりしている。

【思考・判断・表現】

・自他の価値を尊重し、自分の言動に責任を負う意志や態度で対話型鑑賞に参加しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展 開

人権教育の視点から特に重要なこと・・・・・・★

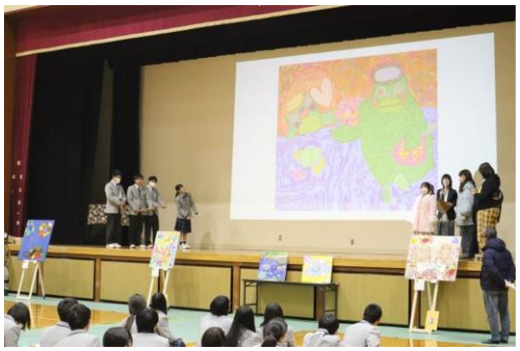
	生徒の活動	教師の指導・支援	評価規準及び 評価方法
導入	1 ありがとうファームメンバーと会社について知る。(5分) 2 個人で作品を鑑賞する。 (10分)	○グループ(8～10名程度)ごとに出欠を確認し、司会役にワークシートに対応した1～5の番号が書かれたカードを渡す。 ○落ち着いた態度で説明を聞くことができるよう促す。 ○他の人の鑑賞の妨げとならない鑑賞態度になるよう適宜声掛けし、会場全体が落ち着いた雰囲気となるようにする。	
展開	3 ありがとうファームによる対話型鑑賞のルール説明・アーティストの挨拶を聞く。(5分) 4 代表生徒は対話型鑑賞のデモンストレーションを行う。聴衆の生徒は、対話型鑑賞のデモンストレーションを見る。 (5分) 5 あらかじめ指定されたグループで対話型鑑賞を行い、意見を伝えたり、聞いたりしてアート作品について考える。 (15分)	○アーティストの挨拶を落ち着いた態度で聞けるよう促す。 ○対話型鑑賞のルールを確認させる。理解できていない様子があれば、個別に声掛けを行う。 ★対話的鑑賞の際には、発言することも大切だが、それ以上に相手の意見を丁寧に聞くことが大切だと伝える。 ○代表生徒には、対話型鑑賞のルールを意識させるよう、必要に応じて声掛けや質問を行う。 ○聴衆の生徒には、落ち着いた態度でデモンストレーションを見るよう促す。 ★ワークシートの【すき・とくい】【にがて・ふとくい】について互いに話をさせ、自己開示と他者理解を行う様子を聴衆に見せることにより、自分の経験を踏まえた発言をしやすい雰囲気となるようにする。 ○ワークシートに基づいて、グループごとに対話型鑑賞をさせる。進行は、司会役の生徒に行わせる。 ・アイスブレイクとして【すき・とくい】【にがて・ふとくい】について話し合わせ、自己開示と他者理解を促す。ただし言いにくい生徒には無理強いせず、言える範囲で、言いやすい内容の話ができていればよいことを伝える。 ・指定された作品に、グループでストーリーを設定させる。ストーリーは、【1いつ】【2どんなところ】【3主人公は】【4○○するために】【5何をしている】のように、各自で分担させる。 ・分担は、事前にカードで指定しておく。生徒に、担当した部分の自分の考えを伝えさせ、グループで一つのストーリーを作ることを通して、対話によってお互いの意見が混ざる経験ができるようにする。(※同じ番号を持っている生徒同士は、より面白いストーリーになるように話をさせる。) ○対話型鑑賞の様子を見取り、対話の進んでいないグループに入って発言を促すための質問をする。 ・自分の意見を持ちにくい生徒に対しては、教員個人の意見等を適宜伝えたり、質問をしたりして発言を促す。 ・対話に参加する場合、教員も生徒の発言を丁寧に聞き取り、自分の意見を配慮ある言葉で伝える。 ★自他を尊重した言動ができていなければ、当該生徒に	・他者の意見を尊重すべき一つの意見として傾聴し、自他を尊重した適切な言葉で自分の意見を伝えたり、自分の中に、他者への思い込みや偏見がある可能性に気付いた発言をしたりしている。 (発言の内容・行動の様子) 【思考・判断・表現】 ・自他の価値を尊重し、自分の言動に責任を負う意志や態度で対話型鑑賞に参加しようとしている。 (行動の様子) 【主体的に学習に取り組む態度】

		「なぜそう感じるのか」などの質問をして発言の意図を確認したり、「今の発言は配慮のない言い方に感じる」と意見を伝えたり、「別の人の意見も聞いてみよう」と提案するなどして、落ち着いた態度がとれるよう試みる。 ★教員が介入する場合も、原則、生徒の意見自体を否定しないようにする。また、ヒートアップした生徒に対しては、他の人の意見をまとめる役を振る等して、落ち着かせるようにする。	
終末	6 グループ発表をする。 （10 分）	○落ち着いた雰囲気の中で他グループと意見を共有できるように促す。 ・全体の進行役（ありがとうファーム深谷氏）が2～3のグループに対して、作品に設定したストーリーを尋ね、全体で共有する。 ・他のグループの発表を落ち着いた態度で聞けるように適宜声掛けを行う。	
事後指導	【HR にて】 アンケートを使って対話型鑑賞での学びについて振り返りをする。 （5分）	○学習内容をまとめた後、アンケートを配布し、落ち着いた雰囲気の中で記入させる。 ★トーク＆アート展の前後で、自分に何か変化があったかどうかをアンケートの質問項目に回答することで意識することができるようにする。	・自分の中にある、他者への思い込みや偏見の可能性を見出した記述をしている。 （アンケート） 【思考・判断・表現】
【達成された姿】 他者の意見を尊重すべき一つの意見として傾聴し、自他を尊重した適切な言葉で自分の意見を伝えたり、自分の中に、他者への思い込みや偏見がある可能性に気付いた発言をしたりすることができる。			

(3)準備物
ワークシート、バインダー、筆記用具

＜当日の様子＞

【個人鑑賞】



【デモンストレーション】

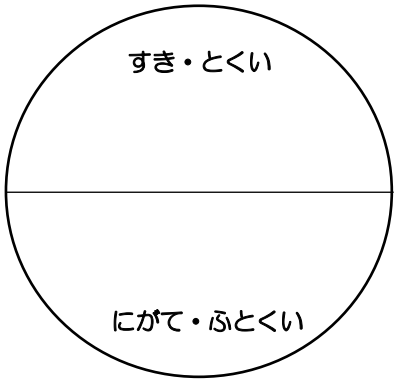
【対話型鑑賞】

【グループ発表】

「R6 トーク＆アート展」ワークシート

★会場では１～４，終礼時に５～６を行ってください。

1．



円の中に
【すき・とくい】と【にがて・ふとくい】
をかいてみよう。

２．作品はどう見える？自分の意見を書いて、グループで共有しよう。

作品番号	作品の第一印象/気になるポイント

３．作品にストーリーをつけてみよう。
※配布されたカードの番号は、この下の１～５を表します。

１　いつ（時間帯や時代など）
２　どんなところ（場所や国など）
３　主人公は（気になるものに名前をつけてみる）
４　〇〇するために（〇〇を考えてみる）
５　何をしている（どんな状況か考えてみる）
※グループの同じ番号を持っている人と面白いストーリーになるように話してみる。

４．次の質問の当てはまる項目に〇印をつけてください。

	質　　問	当てはまる	まあまあ	あまりない
1	多様性を尊重したいと思った			
2	自分の気持ちを人に伝えたいと思った			
3	自分の気持ちを人に伝えることができた			
4	他者の気持ちを聞きたいと思った			
5	他者の意見をしっかり聞くことができた			
6	責任ある言動をすることができた			

５．次の質問について、気づいたことや感じたことを書いてください。

①アーティストについて知った後に作品を鑑賞して、気づいたことや感じたことを書いてください。

自分の気持ちについて	
作者・作品について	
グループの人について	

②グループの人やアーティストの意見を聞いたことで、気づいたことや感じたことを書いてください。

自分の気持ちについて	
作者・作品について	
グループの人について	

６．「“共生社会”をテーマとした川柳」をつくってみよう。

～メモ～

（　）年（　）組（　）番　氏名（　　）